

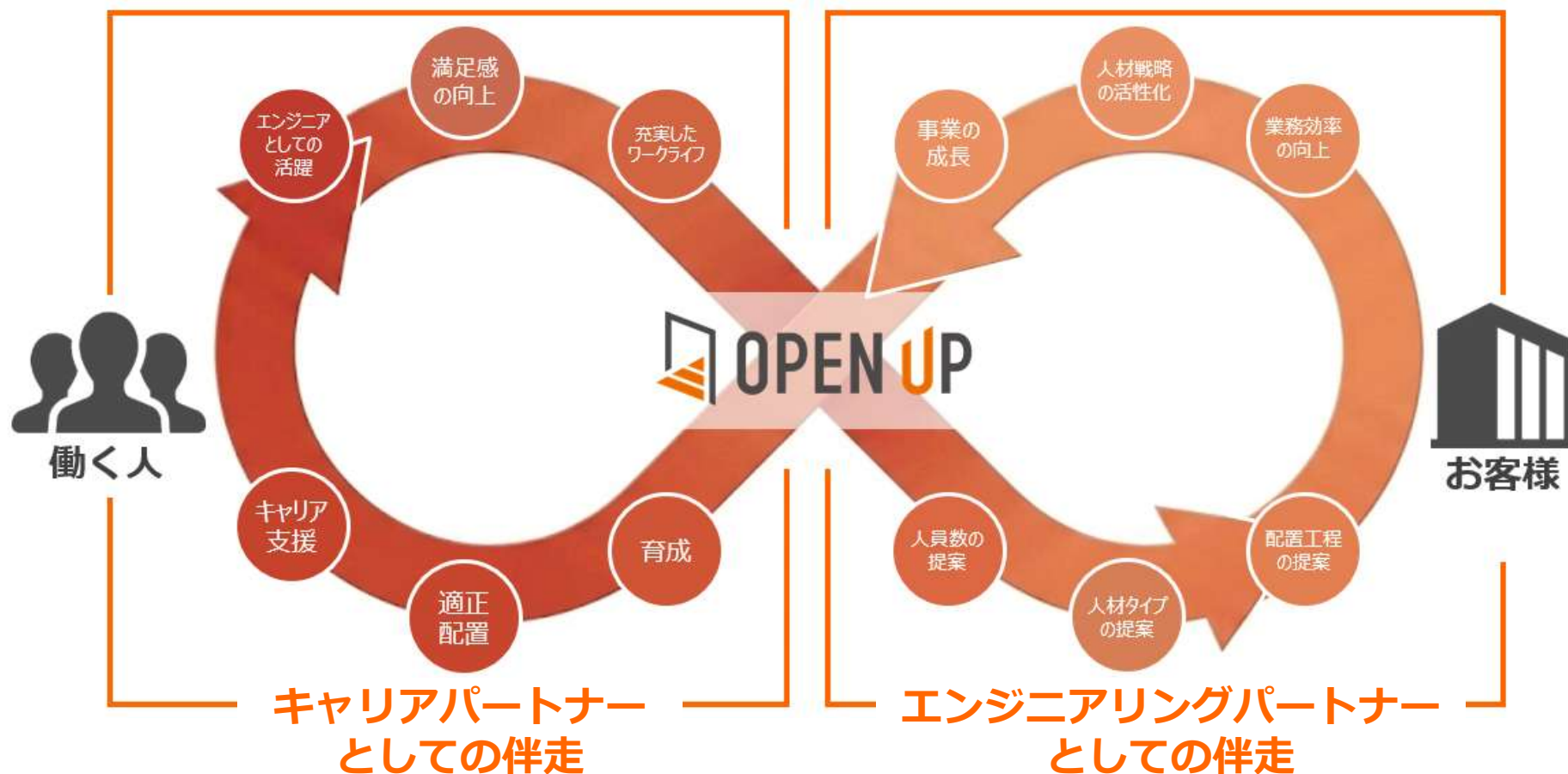


2026年7月31日 適時開示解説

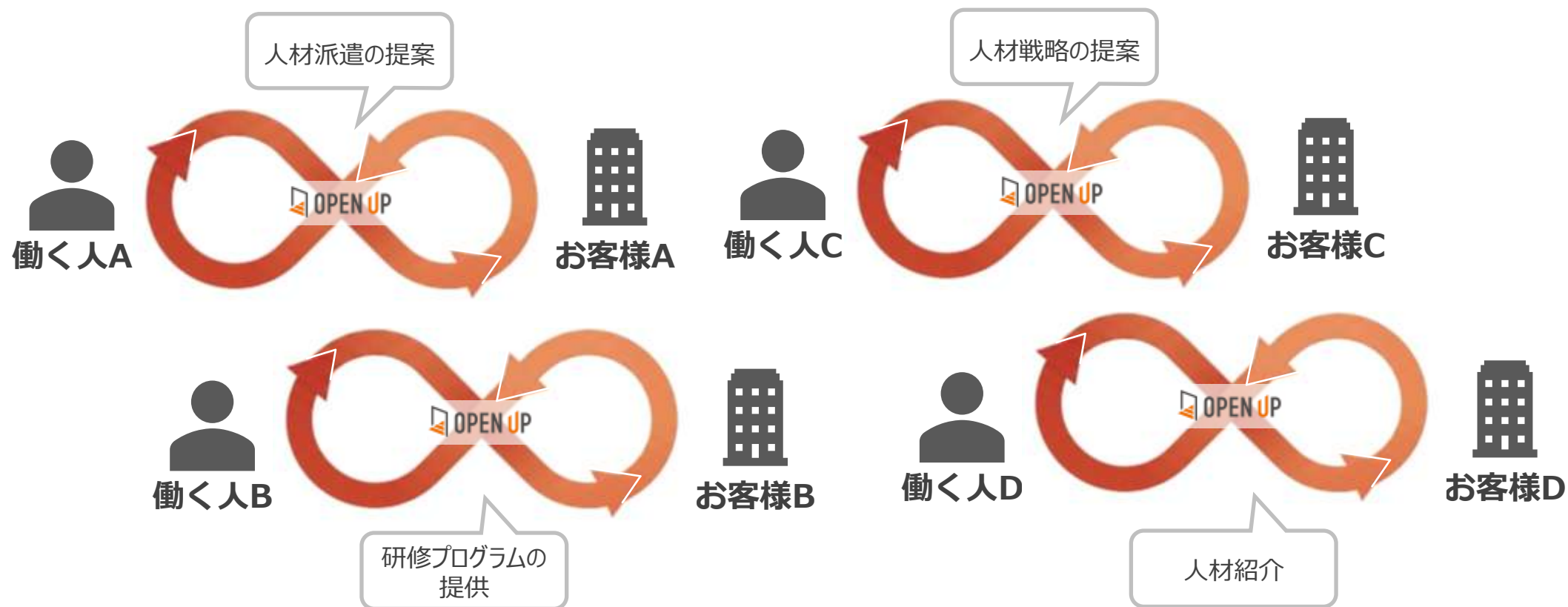
株式会社オープンアップグループ（2154）
2026年7月31日

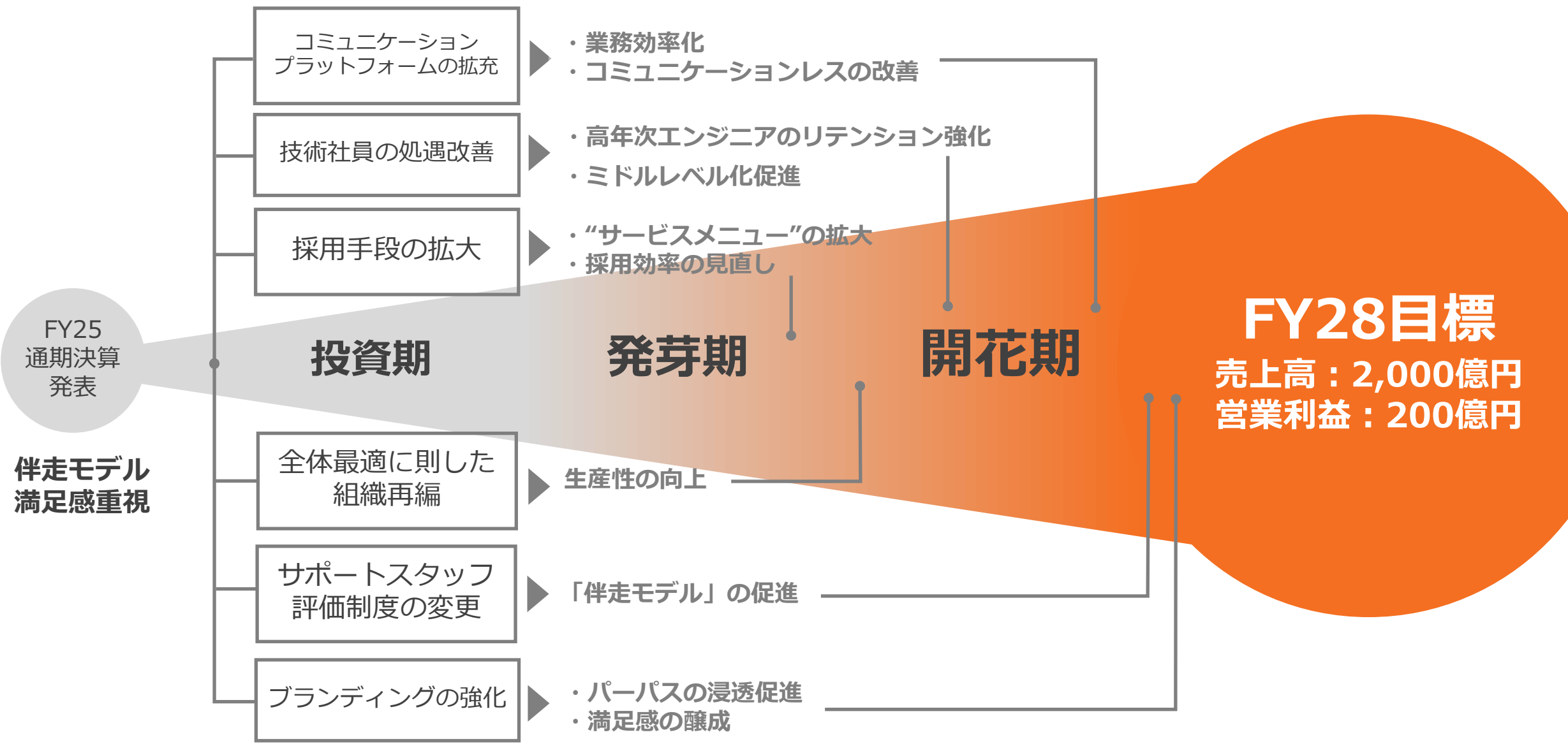


「働く人」と「お客様企業」の両者にとって“パートナー”になる



働く人のキャリア創出に伴走する形態に捕らわれずに価値が発揮できるよう、
様々な手法の人材サービスを展開する





1. 代表取締役の異動

- 2026年9月25日開催予定の第22期定時株主総会での承認及びその後の取締役会において正式決定
- 異動予定日：2026年9月25日

氏名	新役職	現役職
西田 穰	代表取締役会長	代表取締役会長兼社長 CEO
早田 麻子	代表取締役社長	—

2. 新任代表取締役社長の略歴

- 早田氏は、フィロソフィーを経営の軸として、現場の行動変容や顧客価値・事業成果の創出を実現した実績がある
- 同氏の経験が当社が目指す「伴走モデル」等の具体化・加速に重要であると判断し、取締役候補者として招聘することを決定

氏名（生年月日）	略歴	
早田 麻子 (1971年12月2日)	1994年4月	山一証券株式会社 入社
	1996年1月	京セラコミュニケーションシステム株式会社 入社
	2013年1月	日本マイクロソフト株式会社 本部長
	2016年10月	日本ビジネスシステムズ株式会社 執行役員
	2018年3月	アクセンチュア株式会社 マネジング・ディレクター
	2021年4月	早稲田大学総合研究機構トランスナショナルHRM研究所 招聘研究員（現任）

「伴走モデル」を具現化する事業変革を実行



- 事業フロントの「現場情報」とバックオフィスの「システム・仕組み」を統合
- データ・ノウハウを蓄積し、グループ全員の知恵を集結させます

政治・法規制

- 政府主導の経済対策（サナエノミクス）
- 派遣法の改正と残業時間の減少
- 戦争など経済・流通の混乱

経済

- インフレーションと賃金の上昇
- 売り手市場による人材の流動化
- マクロ経済の不透明さ

社会

- IT人材の構造的不足
- グローバル人材の登用
- リモートなど多様な働き方

技術

- 生成AIによる仕事の代替・仕事の拡大
- フィジカルAI、エッジAIの普及
- DXやクラウドへの投資の拡大

核心的な内部課題

**「グループ集合知を集結し、
経営力を最大限に発揮する
ことができていない」**

2021年のOPG発足から5年が経ち、成長を続けてきた一方で、グループ各社のシナジーを発揮し、一体となった強み（集合知）を活かしきる仕組みづくりが、まだ道半ばにあります。

なぜ、集合知が発揮できないのか？

その要因は、グループ各社の「制度・システム・業務」のばらつきにあります。

■ シナジーが埋もれている

グループ共通のノウハウやスケールメリットの創出、ブランド力の活用が十分にできておらず、個社ごとの活動にとどまっている現状にあります。

■ 縦割りによる機会損失

人事制度や顧客情報が各社で閉じているため、グループ内でのエンジニアの最適な配置や、顧客への提案機会を逃しています。

■ 個別最適の限界

業務フローがバラバラで、同じようなシステムが乱立しているため、非効率や維持コストの増大、データ連携の難しさが生じています。

「伴走モデル」を具現化する事業変革を実行



- ・ フロントの「現場情報」とバックの「システム・仕組み」を統合
- ・ データ・ノウハウを蓄積し、グループ全員の知恵を集結させます